

# 看護教員の魅力とは？ 看護の未来をつくるシゴト

## 看護師養成所教員の魅力発信 第3回

甲賀看護専門学校  
看護の統合と実践担当  
看護教員 森地加織さん

甲賀看護専門学校は、「科学的思考と深い知性、豊かな感性を兼ね備えた人材」の育成を目指している。

### 教員のやりがいと模索

甲賀看護専門学校で看護の統合と実践担当の看護教員を務める森地加織さんは、もともと、介護福祉士として勤務をしていた。しかし、人々がどういった状況に置かれているか、不安や悩みはないかを考える中で、介護でできることの限界を感じ、看護師を志した。学校卒業時、恩師から「看護師として経験を積んだら、教える側で戻ってきてほしい」と声を掛けてもらい、将来、教員になることを目標に看護師として臨床経験を積んだ。そして、3年前から母校の教員になった。

入職時は、新型コロナウイルス感染症の流行が拡大した年だった。そのため、臨地実習が学内実習に変更されるなどの新たな対応が求められる中、教育の経験を積み重ねた。最初は、学

生との適切な距離の取り方、教育の指導方法や評価方法も分からなかったが、その都度、他の教員に助言を受けながら、無我夢中で取り組んだ。

そして、教員3年目、学生自らが看護に興味を持ってもらえるように働き掛け、教員からの一方通行にならないように、学生の気持ちに寄り添い話を聴くことを心掛けた教育を行うようになり、やりがいを感じられるようになったという。教育を通して「学生は自分で成長していく力を持っている。自分自身についても、教育に携わる者としての成長が、人としての成長につながる」と学んだ。今後も学生にどのような教育方法が良いのか模索し続けていきたいと語る。

### 学生と教員を支える教育環境

同校は、学生の教育環境を充実させるため、チューター制（1人の教員が1学年で4～5人程度、全校で10～11人程度の学生を担当する）を導入し、3年間、継続的な支援を行っている。このことによる、学生の学びのスピードや理解に応じて適切なアドバイスが行えるようになった。教員と学生の組み合わせを変更して相性を見るなど、学習面の支援だけでなく、将来のことや困っていることへの相談窓口の機能も果たしている。

また、教員は、学生が18時まで学内にいるため18時30分ごろを目途に退勤することが多いが、週1回は定時に退勤する取り組みや月に1回、年休を取得できるといった働き方改革が行われている環境だ。教員は、授業や実習、学生対応など、さまざまな業務があるため、授業の準備を時間内

で行うことはなかなか難しいが、森地さんの職場では授業を行うための準備についても、学内で時間内に行う方針だという。

同校は、学生に対する教育はもちろん、教員の働く環境にも気を配り、未来の看護師を育てるということに、学校全体で取り組んでいる。

### 教員も「学び続ける姿勢」が必要

森地さんは、看護教員について、看護師の仕事の素晴らしさを学生に伝えていける、やりがいのある仕事だと語る。学生に看護を教えることは自分自身の学びとなり、自らの成長にもつながる。学生に理解できるように伝える役割は想像以上に大変な面もあるが、その大変さも魅力であり得られるものも大きいという。



森地加織さん

看護師の知識や技術は、さまざまな経験を蓄えていくことで磨かれる。そのため、看護教員にも十分な知識と経験が求められる。看護教員の質を確保し、教員自身の意欲の向上を図るため、教員自身も学び続ける姿勢が必要だ。「看護をすることは楽しい」と学生に届けることができれば、未来の看護師を育てること、そして、看護教員の確保にもつながると森地さんは考えている。

【学校概要】開校：2001年、課程：看護専門課程、  
修業年限：3年、総定員：120人